

通信指令員の口頭指導28項目に対するセルフチェックシート

種別	CPA	事案概要:通報主訴など記載					※種別を○で囲む ※事案内容を簡単に記述 ※各自でチェック、評価	
	非CPA							
フェーズ (P) 別 チェック項目	チェック内容 (はい、いいえの欄に○を記入する)		CPA事案 チェック	非CPA事案 チェック	はい	いいえ	CPA事案 はいの数	非CPA事案 はいの数
P1	重要項目	① 通報者が傷病者本人かどうか、確認した	○	○			/ 2	/ 2
		② 慌てている通報者を落ち着かせ、わかりやすい言葉で指示を伝えた	○	○				
	基本項目	① 種別 (火事か救急か) の確認をした	○	○			/ 5	/ 5
		② 住所の確定ができたか	○	○				
		③ どなたがどうされましたか? (※事故と急病の区別の確認)	○	○				
		・事案内容 (急病か外傷か) を確認した						
		・事故種別 (急病、一般負傷、交通事故等) を確認した						
④ ・救急隊の出動指令を出した	○	○						
⑤ ①～④までの必要な基本項目を、P 1 の1分以内に行った	○	○						
P2	重要項目	① 傷病者の意識、呼吸の様子を、通報者が理解しやすい言葉で確認した	○	○			/ 6	/ 6
		② 最初に意識の確認を行い、次に時間を空けずに呼吸の確認を行った	○	○				
		③ 意識、呼吸の様子を、覚知から2分以内 (P 2までに) に行った	○	○				
		④ CPAの判断が2分以内 (P 2の間) にできた	○	○				
		⑤ 通報者を含めた傷病者周囲の協力者の様子 (人数 性別 年齢 冷静さ) がイメージができた	○	○				
		⑥ 通報者や傷病者周囲の協力者にそれぞれの役割を指示、指導した	○	○				
	基本項目	① 慌てている通報者が落ち着いて話ができるような指導した	○	○			/ 9	/ 4
		② CPAを疑った事例では、速やかにP A連携出動を指示した	○					
		③ 自宅からの通報では、傷病者の位置が床かベッドか布団か確認した	○					
		④ (応急手当ができる協力者に) 適切に胸骨圧迫の指導ができた	○					
		⑤ CPAの判断に迷った場合に、胸骨圧迫を積極的に指導できた	○					
⑥ AEDがある場所では、準備の指示、使用法の指導ができた	○							
⑦ 胸骨圧迫の指導前に電話のハンズフリー指示が必要か、確認した	○							
⑧ 胸骨圧迫その後も継続して行われているか、確認したか	○							
⑨ 非CPAが確認出来た事案では、速やかに症候インタビューを開始した		○						
⑩ 非CPA事案の緊急度判定に有用なキーワードとなる症候を聞き出せた		○						
⑪ ①～⑩までの必要な基本項目を、P 2 の1分以内に行った	○	○						
P3	重要項目	① 通報者に対し、救急隊到着まで適切な口頭指導が継続できた	○	○			/ 3	/ 2
		② 非CPA傷病者であった場合に、症候から適切な緊急度の判断ができた		○				
		③ 協力者がいる場合に、胸骨圧迫を交代するよう指導した	○					
		④ CPA傷病者への胸骨圧迫を続けているか、通信途中で複数回確認した	○					
基本項目	① 出動救急隊に必要な傷病者や協力者に関する情報伝達できた	○	○			/ 4	/ 4	
	② 非CPA傷病者に対し、速やかに症候別のインタビューを開始した		○					
	③ 救急隊が傷病者に接触できるよう施錠の解除、誘導手順を指導した	○	○					
	④ ①～③までの必要な基本項目を、P 3 の1分以内に行った	○	○					
		総合評価 (P1～P3)					重要事項 / 11	基本項目 / 10
							基本項目 / 17	重要事項 / 3
自己評価結果から気づき、できなかったこと、その他について								
備考欄								

※このセルフチェックシートは、平成29年度一般財団法人救急振興財団調査研究助成事業「口頭指導技術の評価・教育システム普及に関する研究」により作成されたものである。(コピー使用可)